

令和7年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査の結果(概要)

1 令和7年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査の概要

令和7年12月
学校教育室学力向上担当



調査の目的

・本県小・中・義務教育学校において、児童生徒一人ひとりの定着状況と分析結果からつまづきの内容や要因を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図る

・明らかになった学習指導上の問題点を、各種研修会や学校訪問指導等の様々な教育施策に反映させることにより、本県すべての教員の指導力向上に資する

調査概要

調査実施日	①児童生徒：令和7年10月1日（水） ②学 校：令和7年9月24日（水）～10月1日（水）
調査対象	①児童生徒：公立小学校第5学年（8,653人）、公立中学校第2学年（9,052人） ②学 校：公立小学校等（258校）、公立中学校等（143校）
調査事項	①児童生徒：教科調査〔小：国語・算数、中：数学・英語〕／質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	① 学習指導要領が各教科で育成を目指す資質・能力（知識及び技能や思考力、判断力、表現力等）を問う問題を出題。 ② 経年比較問題として、過去調査分析より、課題とされた内容の改善状況や、定着が図られている内容の状況を問う出題 ③ 英語については、①、②に加えて、令和5年度全国学力・学習状況調査を踏まえて出題

本県の平均 正答数（率）

（ ）は前年度比

小学校第5学年				中学校第2学年			
国 語		算 数		英 語		数 学	
15.0／24問 62.7%（△4.1）		11.9／23問 51.6%（△1.4）		8.6／23問 37.2%（▼6.8）		9.9／22問 45.2%（△1.8）	
知・技	思・判・表	知・技	思・判・表	知・技	思・判・表	知・技	思・判・表
66.3% （▼0.9）	60.5% （△7.2）	53.5% （▼7.7）	48.6% （△7.1）	41.0% （▼5.4）	33.5% （▼8.8）	46.6% （▼6.0）	40.9% （△11.3）

● 場面の展開を捉えて読むことに課題が見られる。

→ 物語全体の登場人物の行動や気持ちを捉え、場面の展開を捉えて読むことができるようにする。

※ (1) エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」につなげる。

小学校国語
大問3 (2)

登場人物の行動や場面の様子を表す叙述を基に、場面が移り変わったところを捉えることができるかどうかをみる問題

(2) この文章は、「たもんが魚をあみに入れる前の場面」と「たもんが魚をあみに入れたあとの場面」という二つの場面に分けられます。どこで分けられますか。文章中の【1】と【4】の間から一つ選び、その番号を書きましょう。

正答例 【3】 正答率56.1%

誤答例 【2】 反応率20.5%

- ・【2】の反応率は20.5%である。このように解答した児童は、「たもんはかたうでをのばして、さおをいっぱいにたてた」の叙述のみに着目し、この直後に魚があみに入ったと判断したと考えられる。
- ・この後をさらに読むと、「たもあみを水面につき出した」「たもあみの中で、魚がバタバタ大暴れした」とあり、この2つの叙述の間に魚があみに入ったことがわかる。場面の展開を捉えるためには、1つの叙述から登場人物の行動や気持ちを捉えるのではなく、複数の叙述を基に物語全体の登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要である。

授業実践アイディア例

教材：令和7年度学習定着度状況調査【小学校国語】大問3

第1時

・目標を確認する。※ 重点は「C 読むこと(1)エ」

【例】登場人物の気持ちの変化を、場面の移り変わり結び付けて想像する。

・全文を読み、初発の感想等から学習課題を決定する。

【例】たもんはなぜ最後に「いとおしかった」と感じたのだろうか。

・学習計画を立てる。

第2時

構造と内容の把握 ※「C 読むこと(1)イ」



課題解決のために、この時間はどんなことに気を付けて読んでいけばよいですか？

Point!

・この時間の読みの目的と視点を共有する。

・1, 2年生での既習を意識させる。



場面ごとに たもん の気持ちを確認しておけば、課題解決につながりそうですね。

「あきらめかけた」とあるから、最初はなかなかつれなかったことがわかるね。



エサを投げ入れるのにも苦労しているからね。あきらめたい気持ちになるよね。



気持ちが大きく変わるのは、魚をつりあげる前と後でよね。どこで分けられるかな。



確かにさおを立てると、そこで魚が水面から出て来るイメージがありますね。



・物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることを促す。

・正確な読みでない場合は、叙述に戻ることを促す。



場面に分けて、その時の たもん の気持ちを整理できましたね。これで、次の時間は、たもん の気持ちの変化を中心にくわしく読んでいけそうですね。「なぜ、最後にいとおしかったと感じたのか」に迫っていきましょう。

第3時

精査・解釈 ・たもん の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて想像し、伝え合う。



1回読んだだけだから、どんな話なのかもう少ししっかり読んで、もっと「わかる」必要があるなあ。

そのためには、登場人物の行動や会話、場面の様子に注目して読まないかね。

そうだ。場面に分けて、そのときの たもん の気持ちをかんたんに整理していこうよ。

魚が食いついた時はかなりおどろいてあせっていると。だから「しんぞうがドッキンドッキン」なんだ。

この場面からは、緊張感が伝わってくるね。

でも、続きを読んでいくと、たもあみを水面からすくったことが書かれているよ。

その後、「やったあ！」と続いている。

本当だ。ということは、つり上げた後の場面は「たもあみを水面からつき出した」の後からだね。

【学習の振り返り】

・たもん の行動や会話に注意して、範囲を広げて読み直したら、場面の変わり目に気付くことができてよかった。

・次の「精査・解釈」につなげる学習であったことを共有する。

Point!

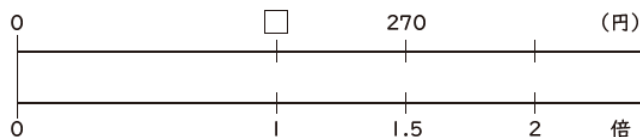
● 比較量と割合（小数倍）から基準量を求める場面で、数量の関係を捉えることに課題が見られる。

→ 同じ場面の中で、比較量を問う問題から、基準量を問う問題、割合（倍）を問う問題を、一連の活動として取り入れ、比較量、基準量、割合（倍）の求め方を、統合的に捉えることができるようにする

小学校算数
大問2（3）

小数倍の場面の数量の関係を、□を使った式に表すことができるかどうかをみる問題

- (1) A店のたまごサンドイッチのねだんは270円で、メロンパンのねだんの1.5倍です。メロンパンのねだんは何円かを求めるために、メロンパンのねだんを□円として図と式に表します。正しい式を①～④の中から1つ選び、その番号を書きましょう。



- ① $270 \times 1.5 = \square$ ② $\square \times 1.5 = 2$
③ $270 \times 2 = \square$ ④ $\square \times 1.5 = 270$

正答例	④ $\square \times 1.5 = 270$ (正答率60.5%)
誤答例	① $270 \times 1.5 = \square$ (反応率25.7%)

- ①の反応率は25.7%であり、このように解答した児童は、基準量と比較量、割合（倍）の関係を捉えないまま、問題文の「270円」と「1.5倍」から、「 $270 \times 1.5 = \square$ 」の式を選択したと考えられる。
- 除法の意味としては、乗法の逆として、割合を求める場合と、本問のように基準量を求める場合とがあるが、整数だけでなく小数にもそのまま当てはまると考え、捉えなおすことについて引き続き課題がある。公式や言葉の式だけでなく、数直線や図を用いるなどわかりやすくすることが大切である。また、はじめに乗法の式に表してから、除法で求めるという考えを用いることも大切である。

授業実践アイデア例

(1) 比較量を求める

問題(1)を考えましょう。

270×2.2 の式で求められるね。

ハンバーガーのねだんは594円だ。

(2) 基準量、割合（倍）を求める

次に、問題(2)を考えましょう。

$270 \div 1.5$ で求めればよいかな。

えっ?! 式は 270×1.5 じゃないの?

どちらの式で求めればよいのか、グループで相談してみましょう。
問題(2)を解決できたグループから、それぞれに問題(3)に進んで考えましょう。

全く自信がない...

問題(1)は「たまごサンドイッチの2.2倍」だから、「 270×2.2 」でよかったけど...

問題(2)は「たまごサンドイッチ」じゃなくて「メロンパンの1.5倍」だから、「 270×1.5 」では求められないのか。

もとにする大きさが変わるからね。だから、メロンパンの値段を□円とすると、「 $\square \times 1.5 = 270$ 」で、求める式が「 $270 \div 1.5$ 」になるとわかるわけ。

ということは、問題(3)は、「 $180 \times \square = 594$ 」となるから、求める式は「 $594 \div 180$ 」と考えればよいのか。なんだか、わかってきたぞ!

【学習の振り返り】
・今日は、求める量がいろいろだったけど、図に矢印をかいりかけ算の式で考えたりして、求める式を考えることができた。

わたるさんは、パン屋の人気商品のねだんを調べています。

当店人気No.1

当店人気No.2

当店人気No.3



- (1) たまごサンドイッチのねだんは270円で、ハンバーガーのねだんは、たまごサンドイッチのねだんの2.2倍です。ハンバーガーのねだんは、何円ですか。
(2) たまごサンドイッチのねだんは270円で、メロンパンのねだんの1.5倍です。メロンパンのねだんは、何円ですか。
(3) ハンバーガーのねだんは、メロンパンのねだんの何倍ですか。

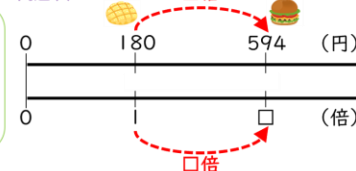
問題(1)



問題(2)



問題(3)



Point!

- 同じ場面の中で、比較量を問う問題から、基準量を問う問題、割合（倍）を問う問題を、一連の活動として取り入れて、学びが深まるようにします。
- 苦手意識のある内容だからこそ、児童のつまずきを取り上げて、学び合いに生かすようにします。
- 「求める式」を急がずに、□を使った式で数量の関係を捉えられるようにしています。
- 数直線図に、「1.5倍」のような矢印を、自分でかきこんで考えることは、比例等の学習にもつながります。

【学習の振り返り】

・3問やって図の意味がだんだんわかった気がする。最後の問題は「 $180 \times 1.5 \times 2.2$ 」で考えてもよいのかな?



● 文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることに課題が見られる。

→まとまりのある文章を最初から最後まで読み、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることができるようにする。

<参考>全国学力・学習状況調査授業アイデア例（R5短い文章の概要を捉える力を育成するための学習過程）



中学校英語
大問7

AIについて書かれた英字新聞の記事を読んで、文章の概要として最も適切なものを選ぶことができるかどうかをみる問題

7 英字新聞を読んでいたケンタは、次の文章を見つけました。この文章の概要(文章全体の^{がいよう}大まかな内容)として最も適切なものを、あとの1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

Today, many people use AI. It can do a lot of things. Some people use it for their work or studies. I sometimes use it, too.
*One day, we had an art *project at school. We wanted to make a picture for the school festival. Some of my classmates didn't have good ideas, and they used AI. AI made a very nice picture, so we were surprised. But then our teacher said, "You can get ideas from AI, but I *want you to make it *by yourselves."
At first, it sounded hard. Making something from nothing *takes time, but we tried. I talked with my friends, and we shared our ideas many times. *In the end, we made a picture *by ourselves. It wasn't *perfect, but it was very special. We made it by ourselves, so we liked the picture *more.
After that, I started to think more about AI. AI is *useful, but making things by ourselves is important. I can think more, learn more, and enjoy doing it. I want to think and make new things with my own ideas.

1 15.4%	The writer's class had an art project. Some students wanted to use AI when they made a picture. Then the teacher said they could use AI pictures. The picture was nice, so he and his classmates liked it very much.
2 34.2%	AI is useful, but the writer thinks making things by himself is important. If he doesn't use AI, he can think more, learn more, and enjoy making things. He wants to think and make new things with his own ideas.
3○ 29.5%	The writer and his classmates wanted to use AI for an art project. But they worked together and made their own picture. It wasn't perfect, but they liked it. He learned that making things by himself is important.
4 18.3%	The writer's class had an art project. They needed a picture for the school festival. Some classmates didn't have ideas, so they used AI. But the teacher didn't like using AI for the project.

授業実践アイデア例

1. 文章を読む目的を把握する



Kenta is reading an article in a newspaper about AI. Let's read the article to understand the outline.



「記事の概要を捉える」という目的を明確にする。

2. 文章を読み、各段落の主な内容を捉える

(1) 各自のペースで読み、各段落の主な内容をつかむ。

(2) 各段落の主な内容を表す英文をグループ内で共有し検討する。その際、選んだ理由も述べる。



Let's check Paragraph 1. What does it say?

It says... "many people use AI."



Oh, you're right! How about Paragraph 2?

AIはよい絵を作った。それで、先生が…。
"But …" から話が変わったんだ！



Good point! How about Paragraph 3?

"In the end"！「最後には」だね。彼らは自分たちで絵を完成させたんだ！



Nice! It wasn't perfect, but it was special for them. Then, the last paragraph...

ここも "but" がある！ということは、…



3. 段落間の関係を把握する

板書の例 (Paragraph : Main Point)

- 1st paragraph : Many people use AI.
- 2nd paragraph : The teacher told them to make the picture by themselves.
- 3rd paragraph : It was hard, but they made it by themselves and liked it more.
- 4th paragraph : AI is useful, but making things by themselves is important.

Did you find the main point of each paragraph?



4. 概要としてまとめた英文に情報の不足や偏りが無いか検討する

Let's talk about Options 1 to 4. Which outline is the best? Please tell us the reasons, too.



概要として最もふさわしい英文をグループ内で検討する。その際、選んだ理由や改善点などを述べるようにする。



Let's look at Option 2 and Option 3.

"Making things by himself is important."だから、I think Option 2 is the best!



Really? Let's read again... That is only the main point. Does it have the story of the art project?

Oh... you're right. Option 2には、アートプロジェクトのことが書いてないか…。



I think so, too. Now, look at Option 3. It has the story about the art project and the important message.

アートプロジェクトのことと大切なメッセージの両方が、Option 3には確かに書いてある。Oh, I see! Option 3 is the best!



この一連の活動を、「聞くこと」として、音声を中心とした活動として実践することも考えられる。

● 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

→ データの分布の特徴について、日常的な表現等を代表地など統計的な指標を根拠として見直し、表現を洗練する活動を取り入れ、的確に表現できるようにする

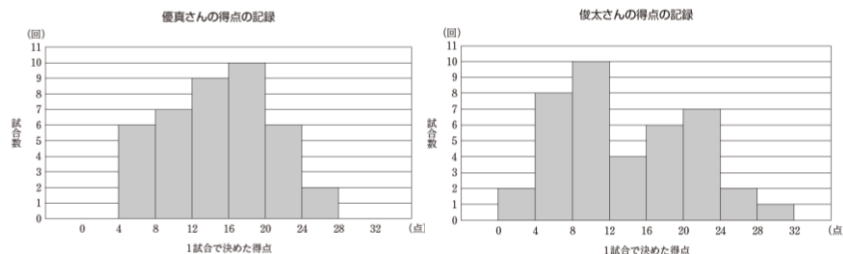
<参考>全国学力・学習状況調査授業アイデア例（H24スキージャンプ，R4コマ回し）

中学校数学
大問5（2）

2つのヒストグラムを比較し、どちらを選ぶか判断し、その理由を説明できるかどうかをみる問題

5 バスケットボール部の優真さんと俊太さんは、どちらが1試合で多く得点を決めたかを調べることにしました。

そこで、40試合のそれぞれの得点の記録を下の2つのヒストグラムに表しました。このヒストグラムから、優真さんの1試合に決めた得点が4点以上8点未満の試合は6回あったことがわかります。



(2) 優真さんと俊太さんは、次の試合でどちらが多く得点できそうかを、2つのヒストグラムをもとに考えてみたいと思いました。

2つのヒストグラムを比較して、そこからわかる特徴をもとに、次の試合でより多く得点できそうな方を選ぶとすると、あなたはどちらを選びますか。下のア、イから1つ選び、その記号を書きなさい。また、その記号を選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらを選んで説明してもかまいません。

ア 優真さん イ 俊太さん

正答例

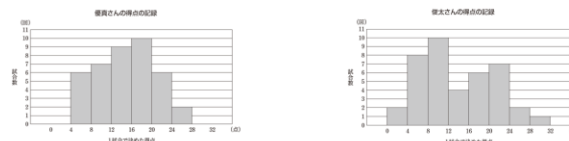
（アを選択）最頻値は、優真さんが18点で、俊太さんの10点より大きいから、優真さんを選びます。（正答率51.8%）

誤答例

（アを選択）優真さんのほうが安定して得点を決めているから。

授業実践アイデア例

バスケットボール部の優真さんと俊太さんは、どちらが1試合で多く得点を決めたかを調べることにしました。そこで、40試合のそれぞれの得点の記録を下の2つのヒストグラムに表しました。



2人のヒストグラムの特徴をもとに、次の試合でより多く得点できそうな方を選ぶとすると、あなたはどちらを選びますか。どちらか一方の選手を選び、選んだ理由を説明しなさい。



あなたが監督だとしたら、どちらの選手を選びますか。
2人のヒストグラムの特徴を比較して、選んだ理由を説明してみましょう。



私は優真さんを選びます。優真さんの方が安定しているからです。

俊太さんの方が多く得点を決めているから、私は俊太さんを選びます。

安定しているって、どういうこと？
わかるような、わからないような。

多く得点を決めているって、ヒストグラムのどこを比べたのかな？



先ほどの選んだ理由の説明では、少し分かりにくいようですね。
2人のヒストグラムを比較したことが分かるように説明できていますか？
数学で学習した用語を正しく使っていますか？

Point!

生徒の説明には、日常的な表現が多くみられるので、資料の特徴に基づいて手直しする活動を取り入れ、説明すべき事柄（結論）とその根拠の両方を、数学的に表現する活動の充実を図る。

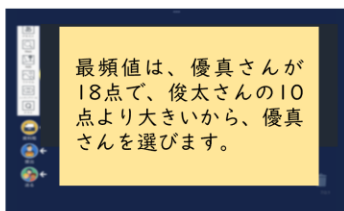
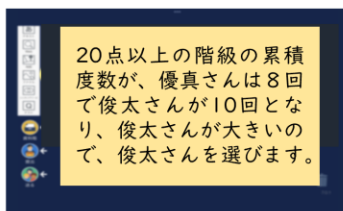
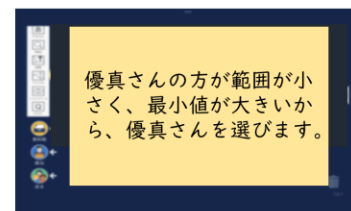


私の説明は「範囲」や「最小値」を使うと、「安定」の意味が伝わりそうだな。

だったら、私の説明は「累積度数」を使えば数学的な説明になるかな。



それでは、改めて、2人のヒストグラムの特徴を比較して、選んだ理由を的確に説明してみましょう。



Point!

記述解答の評価では、全国学力・学習状況調査の正答の条件や正答例（◎や○）を参照する。

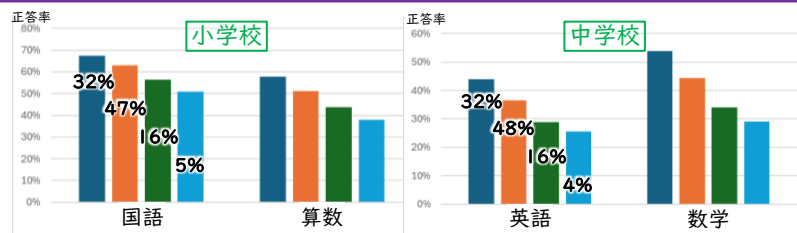


学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

- ◇ 昨年度と同様に、約80%の児童生徒が「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている。中学校第2学年については、R5新入生学調から8ポイント減少している。

授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

- 1 そう思う ■ 2 どちらかといえばそう思う
■ 3 どちらかといえば、そう思わない ■ 4 そう思わない



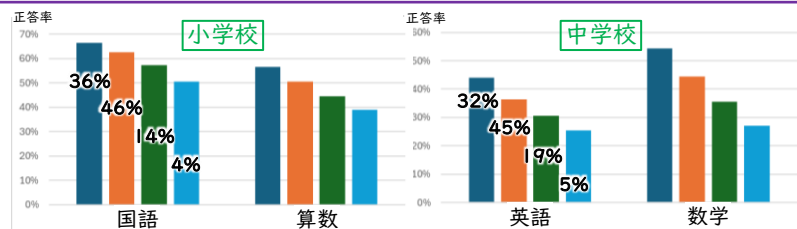
※ 小学校は、学年が上がるにつれて上昇し、AP目標値を上回っている。中学校のピークが入学時では寂しい。

		R7県学調	R8全学調	目標値
		79 (79)	??. (84.3)	
小	R6新入生	88 (86)	80 (80)	目標値 85.4
	R7県学調	80 (80)	??. (81.3)	

- ◇ 多くの児童生徒（小82%、中72%）が「**学習の振り返り**」に取り組み、次の学習につなげたと考えている。学校質問調査（小99%、中98%）と認識のズレがあるなら、解消を図りたい。

わかった点や、わからなかった点を見直し、次の学習につなげている

- 1 そう思う ■ 2 どちらかといえばそう思う
■ 3 どちらかといえば、そう思わない ■ 4 そう思わない

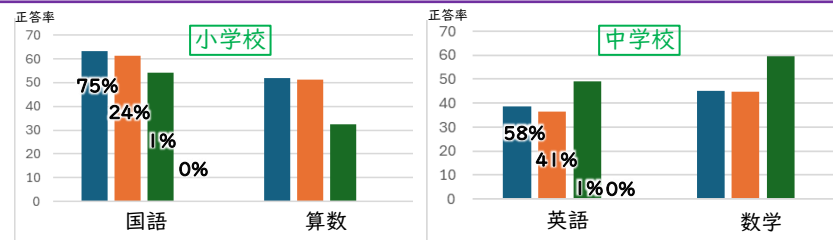


学校の組織的な取組

- ◇ ほぼ全ての小中学校が、「**確かな学力育成プラン**」に基づいて組織的に取り組んでいる。積極肯定（小75%、中58%）もAP目標値を上回っている。

【学校】「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいる

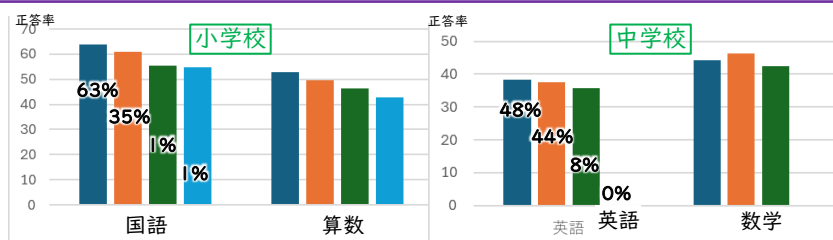
- 1 取り組んでいる ■ 2 どちらかといえば取り組んでいる
■ 3 どちらかといえば、取り組んでいない ■ 4 取り組んでいない



- ◇ R7全国学調で成果を上げた学校を取組例として取り上げた「**複数回のCAPDサイクル**」についても多くの学校が計画している。中学校では、積極肯定のほうが多くなるという相関が見られない。

【学校】年間複数回CAPDサイクルが回るように計画している

- 1 行っている ■ 2 どちらかといえば行っている
■ 3 どちらかといえば、行っていない ■ 4 行っていない



調査結果を踏まえた当面の取組

- ① **検証改善サイクル**の質を高め、全学年・全教科の指導改善を支援する。
- ② 各教科の内容、育成を目指す資質・能力を再確認し、**学習評価の充実**を図る。
- ③ 「指導改善の手引き」等で、**深い学びの実現**を図る授業づくりを支援する。